

# 今、何の病気が流行しているか！

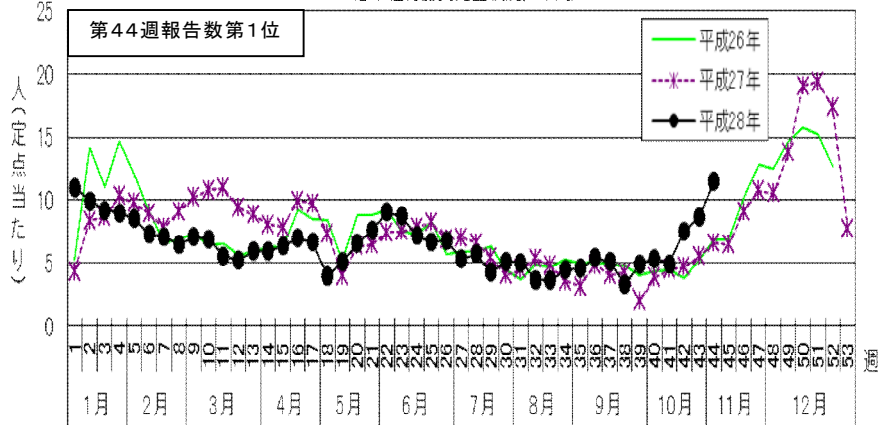
## 【感染症発生動向調査事業から】

平成28年10月31日（月）～平成28年11月6日（日）〔平成28年第44週〕の感染症発生状況

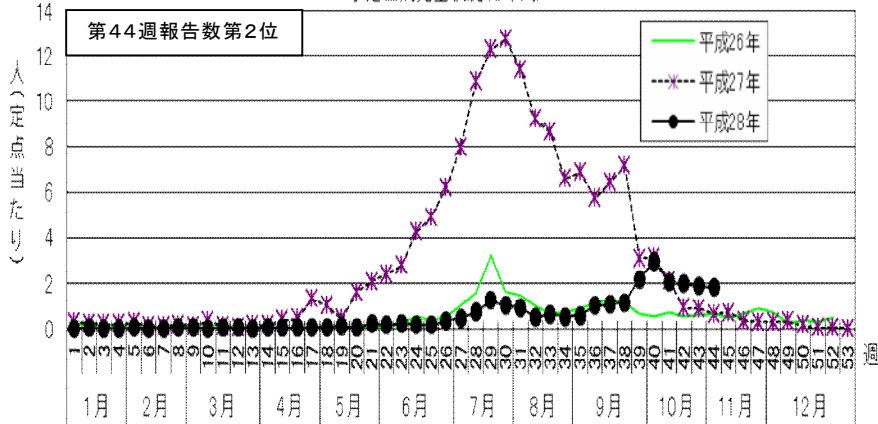
第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)流行性耳下腺炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は11.47人と前週（8.67人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.81人と前週（1.86人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。  
 流行性耳下腺炎の定点当たり患者報告数は1.44人と前週（1.89人）から減少し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



手足口病発生状況(3年間)



## ～腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！！～

腸管出血性大腸菌感染症は、病原性大腸菌（血清型 O157、O26など）に感染することにより、腹痛や下痢などの症状を呈する感染症です。

今年の10月中旬以降、腸管出血性大腸菌 O157に汚染された冷凍メンチカツを原因とする広域食中毒が発生しています。基本的な食中毒の予防対策を徹底することで、感染を防ぎましょう。

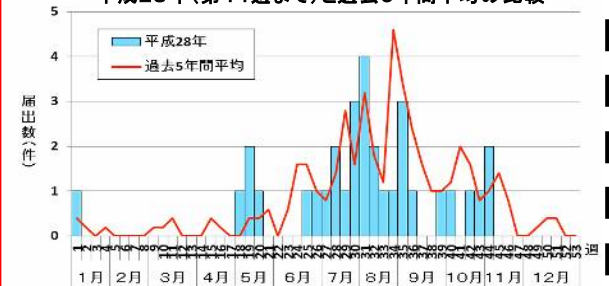
### 腸管出血性大腸菌感染症とは？

- 感染経路  
菌に汚染された飲食物の摂取や患者の糞便に含まれる菌が直接または間接的にヒトの体内に入ることによって感染  
※わずか2～9個の菌だけでも感染することがあります。
- 潜伏期間  
2～14日（平均3～5日）
- 主な症状  
激しい腹痛、頻回の水様性下痢、著しい血便
- 合併症  
溶血性尿毒症症候群（HUS）、脳症  
※子どもや高齢者は合併症を起こしやすいといわれています。



激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう！！

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況  
—平成28年(第44週まで)と過去5年間平均の比較—



### 《予防対策について》

食品は中心部まで75℃1分以上加熱



食品を扱う前や食事の前には手洗いを徹底



生肉・魚に使用した調理器具は、調理のたびに洗浄・消毒

